

様式 4

令和 6 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

令和 7 年 1 月 7 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 共生システム理工学類・教授

申請者名

(学会参加助成の場合は参加者名)

筒井雄二

助成の区分 (該当するものに○)	学会参加助成・学術出版助成・学術論文掲載料等助成
事業名	11-Year Trends of Psychological Impact on Fukushima Mothers and Children Post-Nuclear Accident (原発事故が福島の母子に与えた心理学的影響の 11 年間の推移)
成果の概要	当該学術論文において我々は福島第一原子力発電所事故後 5 年間および事故から 11 年後における、低線量放射線地域に住む母親と子どものメンタルヘルスの変化について検討しました。母親と子どものストレス、抑うつ、放射線に対する不安などの心理的症状は、原発事故の直後に特に強く、時間の経過とともに軽減しました。しかし、事故から 11 年後に実施された調査では、福島の母親と子どもの症状が非被災県の住民よりも依然として高い水準にあることが示され、この影響が少なくとも 11 年間持続していることが明らかになりました。子どもの心理的症状に関する年齢-時代-コホート分析では、弱いコホート効果が示され、事故当時、就学前の子どもたちが大きな影響を受けていたことがわかりました。これらの結果は、原発事故後に高汚染地域から避難した住民だけでなく、避難指示が出されなかった低線量放射線汚染地域に住む住民のメンタルヘルスを改善するための支援が必要であることを示唆しています。さらに、これらの地域で育った子どもの心理的発達を継続的にモニタリングすることの重要性が強調されました。